

九州地域食料産業クラスター促進技術フェア

～「食」「農」「技術」の出会いから 新たなビジネスへ～

1 フェア概要

2008年11月12～13日に、久留米リサーチセンタービル（福岡県久留米市百年公園 1-1）にて、九州地域食料産業クラスター促進技術フェアが開催された。

本フェアは、九州地域で行われる最大の食農関連のイベントとなることを目指し、今年で5回目の開催となる「アグリビジネス創出フェア 2008 in 九州」との共同開催で行われた。

「食」「農」「技術」の出会いから 新たなビジネスへ」というキャッチフレーズを共通のテーマとして掲げ、地域の農林水産・食品産業分野の関連企業、大学、試験研究機関などが、一堂に会し、技術シーズと製品開発ニーズのマッチング・連携を図り、新たな製品や販売経路の開拓、地域ブランドの創出などのビジネスチャンスにつながる「交流の場」とすることを目的に開催された。

主催者は、九州バイオリサーチネット、九州食料産業クラスター連絡協議会、(独)農研機構 生物系特定産業技術研究支援センター、(社)食品需給研究センターである。

1.1. 展示ブース

展示エリアは、食料産業クラスター関係、アグリビジネス関連企業、九州米粉協議会関係、特許ビジネス市関係、大学・高校・公的機関、各種団体、九州バイオリサーチネット研究機関でエリア区分され、全73機関103ブースが出展した。ブースは、関連エリアごとに色分けされ、会場内の各箇所それぞれでそれぞれのコンセプトをみて回れるものとなった。

クラスター関連のブースでは、宮崎県食料産業クラスター協議会の下で7社、おおいた食料産業クラスター協議会の下で5社、その他、福岡、熊本、鹿児島県のクラスター事業に関わる企業・研究機関などが出展し、それぞれのクラスター事業で開発された商品がブースに陳列され、試食や商品説明が活発に行われた。各機関とも、工夫を凝らした展示ブースとなっていたが、中でも宮崎県食料産業クラスター協議会のブースは、展示商品数も多く、展示物の内容・構成・来場者へのアピールなどの観点から総合的に優れており、九州バイオリサーチネットの出展者表彰において、優秀賞を授与された。

また、九州食料産業クラスター連絡協議会、(社)食品需給研究センターも出展し、食料産業クラスターの支援機関としての役割説明などを行った。



食料産業クラスター出展ブース

(左:大分、右:宮崎クラスター関連のクラスター会員企業・団体による出展で、展示品が所狭くと並んでいる)



九州米粉食品普及推進協議会ブース

(熊本県立鹿本農業高校が発表したコモロンパンを展示)



2日目の講演会(日清オイリオグループ(株)青山氏(右)、イオン(株)仲元氏)

食料産業クラスター関係 出展ブース一覧				(ブース番号順)	
1	宮崎県食料産業 クラスター協議会	宮崎県経済農業協同組合連合会	11	おおいた食料産業 クラスター協議会	おおいた食料産業クラスター協議会
2		宮崎県ジェイエイ食品開発研究所	12		(株)八商
3		(株)宮崎農産	13		(株)ろのわ / 喜多屋
4		日向農業協同組合	14	熊本県	熊本県産業技術センター農産加工部
5		(株)響			(株)丸美屋
6		大山食品(株)	15	福岡県	福岡県食料産業クラスター協議会
7		道本食品(株)			中村学園大学・産業医科大学
8	鹿児島県	鹿児島県農業開発総合センター 農産物加工研究指導センター	16		(株)大成物産
9		三州産業(株)		17	熊本県
10		(社)食品需給研究センター	18		九州食料産業クラスター連絡協議会
			19		イオンリテール(株)

1.2. 各種講演会

展示場に隣接する事務所棟 2 階研修室にて、1 日目の 13:00～15:10 には、「米の新たな利用をめざして」をテーマに、基調講演並びに事例報告 2 件が発表された。

基調講演は、「米の新たな利用をめざして～新しい魅力と流通・利用技術」と題して、新潟大学大学院自然科学研究科教授 大坪 研一氏により、世界と日本の食糧情勢から、新品種、新しい食味評価、米の DNA 判別技術や新技術についてなど、今後の米の可能性に向けて分かりやすく説明された。

また、熊本製粉株式会社（以下、熊本製粉（株））研究開発部 部長代理 松永 幸太郎氏による「米粉の二次加工製品への応用」に向けた事例報告、熊本県立鹿本農業高校食品工業科による「がんばる高校生！食料自給率の向上をめざして～新たな米粉製品の開発と普及に関する研究」の事例報告が行われ、研究開発した成果や具体的な商品開発に至るまでの話がされた。熊本製粉（株）が販売している米粉商品は、現在独自に販売展開しているものの、各々の商品ができるにあたっての開発段階においては、クラスターの開発事業を活用しており、そこでの取り組みが基盤となり、商品化に至ったようだ。

2 日目の 13:00～14:40 には、「食」「農」「技術」の出会いから新たなビジネスへ」をテーマとし、2 つの講演が行われた。一つ目の講演では、「健康オイルの開発に関して」と題して、日清オイリオグループ株式会社 執行役員・中央研究所長 青山敏明氏より、油の特性に関する研究成果を中心に発表された。2 つ目の講演は、「桜島大根を中心とした農商一体の取り組み」と題し、イオン株式会社食品商品本部フードアルチザングループ マネージャー 仲元 剛氏より、イオンのフード・アルチザン～食の匠を中心に進めている地域と一体となつての販路拡大の取り組みなどが話された。

一方は研究開発、もう一方は小売業の視点から、両講演とも切り口は全く異なる話ではあったが、共通してお

客様視点に立ち、研究開発や商品開発をしているというスタンスが重なり、新たなビジネスへ向けての大切な視点であることが話された。

1.3. ショートプレゼンテーション

2 日間に分けて、展示場内セミナールーム並びに事務所棟研修室にて、出展機関による 13 課題のプレゼンテーションが行われた。各企業、研究機関の取り組みや開発商品の紹介がされ、研究開発や商品開発の PR の場、情報交換の場として、有意義な時間となった。

2 連携によるフェア開催の意義

前述の通り、本フェアは、今年で 5 回目となる「アグリビジネス創出フェア 2008 in 九州」との共同開催で行われた。九州地域における食品分野のシーズとニーズのマッチングの機会提供という意味においては、目標の共有が可能であるということもあり、2 つのフェアを同時に開催する運びとなった。

アグリビジネス創出フェアでは、川上において技術シーズと製品開発ニーズのマッチングを図る展示、食料産業クラスター促進技術フェアでは、アグリビジネスでの成果を商品化していくという、より川下に近い部分での展示が多く、会場全体として、生産から販売までの縮図が見えるような構成となった。

アグリビジネスサイド、食料産業クラスターサイド、双方の視点から知恵を出し合い、温かみのあるイベントとなったのではないだろうか。

【お問い合わせ】

<フェア実行委員会事務局>

九州バイオリサーチネット事務局

〒860-0842 熊本県熊本市南千反畑町 2-6

(株)日本政策金融公庫熊本支店 農林水産事業内

TEL/FAX 096-353-3651

(文：社団法人食品需給研究センター 松崎 朋子)